

# 會 告

過般來會告の本會第 16 回講演大會に付いては不日會員各自へ詳細なる御案内狀を差出しますが、次記プログラムの通り開催することになりましたから不取敢茲に掲載しました。何卒奮つて御出席あらんこと切望致します。

## 日本鐵鋼協會 第 16 回講演大會プログラム

### 第一日 10月17日 (土、祭) 講 演 會

會 場 九州帝國大學工學部 大講堂

開會之辭

日本鐵鋼協會第 16 回講演大會實行委員長

九州帝國大學工學部長 工學博士 寺 野 寬 二君

#### 講 演 午前之部

- 1) 高速度鋼及附刃工具の二三に就て  
吳海軍工廠製鋼部 工學士 堀 田 秀 次君 <sup>A.M.</sup> 9.10 ~ <sup>A.M.</sup> 9.35
- 2) 航空機構造用珪素マンガン鋼の基礎的研究  
住友金屬工業會社鋼管製造所 工學士 小 島 義 正君 9.40 ~ 10.05
- 3) 酸性電氣爐鋼に對する珪素量の影響  
陸軍造兵廠大阪工廠 技 師 藪 内 周 三 郎君 10.10 ~ 10.35

#### — 10 分 休 憩 —

- 4) 鐵鋼中の含有瓦斯に關する研究(第 3 報)鋼塊内の水素分布及其擴散に就て  
日本特殊鋼會社技師 工學士 矢 島 忠 和君 10.45 ~ 11.10
- 5) ニッケル・クロム鋼の白點に關する二、三の研究  
陸軍造兵廠大阪工廠鐵材製造所 下 村 佳 夫君  
砲兵大尉 工學士 石 田 健 治君 } 11.15 ~ 11.40
- 6) 不感磁性鋼に關する二、三の研究  
日本製鋼所室蘭工場 技師 工學士 遠 藤 信 君 <sup>A.M.</sup> 11.45 ~ <sup>P.M.</sup> 0.10

#### 晝 一 食 (工學部食堂に於て)

#### 講 演 午後之部

- 7) 大型クランクシャフト鍛鍊に關する二三の實驗  
川崎造船所製鋼工場技師 太 田 清 君 <sup>P.M.</sup> 0.50 ~ <sup>P.M.</sup> 1.15
- 8) 角鋼を種々の厚さに壓延せる場合の擴がりの實測値  
日本製鐵會社八幡製鐵所技師 工學士 元 森 信 夫君 1.20 ~ 1.35
- 9) 固溶體を析出相とする二三の時効硬化性合金の熱處理と衝擊値との關係に就て (幻燈用)  
東京工業大學機械工學科 工學士 横 山 均 次君 1.40 ~ 2.05

#### — 10 分 休 憩 —

- 10) 新強力輕合金の研究

住友金屬工業會社伸鋼所 理學士 五十嵐 勇君 } 2.15 ~ 2.40  
同 所 北 原 五 郎君 }



11) ベリリウムを含む銅合金の研究

住友金屬工業會社伸銅所 理學士 稻村賢三君 } P.M. 2.45~ 3.05  
同 所 大橋秀吉君 }

12) マグネシウム合金の研究、九州帝國大學教授 工學博士 今井弘君 }  
Mn を含む Mg 合金の機 " " 工學博士 谷村 濤君 } 3.10~ 3.35  
械的性質及耐蝕性の研究 " 工學部冶金學教室 工學士 三ヶ島秀雄君 }

— 10 分 休 憩 —

13) 超デユラルミンの時効に就て

京都帝國大學教授 工學博士 西村秀雄君 3.45~ 4.05

14) ニッケル-珪素系平衡状態圖 (前刷あり)

東北帝國大學金屬材料研究所 工學士 岡本正三君 4.10~ 4.30

— 10 分 休 憩 —

15) 電氣弧光爐の電氣的特性に就て

大同電氣製鋼所技師 工學士 林達夫君 } 4.40~ 5.05  
同 所 工學士 野田浩君 }

16) 制輪子の材質と熔銑の取扱に就て

鐵道省工作局技師 工學士 大塚誠之君 5.10~ 5.35

第 一 日 終 了

第 二 日 10 月 18 日 (日)

講 演 會 午前 9 時開會

講 演 午前之部

17) 鑄鐵に関する研究

横須賀海軍工廠 海軍造機中佐 工學士 齋藤豊三君 } A.M. 9.10~ 9.35

18) 窒化鑄鐵の研究 神戸製鋼所 工學士 高尾善一郎君 9.40~10.05

19) 鼠鑄鐵の成長に就て 京都帝國大學教授 工學博士 澤村宏君 } 10.10~10.35  
採冶教室研究員 工學士 山本次郎君 }

— 10 分 休 憩 —

20) 鑄鐵の腐蝕現象 大阪帝國大學助教授 工學士 多賀谷正義君 10.45~11.10

21) 灰銑鑄鐵の熱處理に依る顯微鏡組織と機械的性質の變化

神戸高等工業學校教授 工學士 横山武人君 } 11.15~11.40  
堺市金屬工業研究所囑託  
大阪帝國大學工學部講師 工學士 岸本浩君 }

22) 熔滓の鹽基性度及び熔銑の化學成分の脱硫作用に及ぼす影響

大阪帝國大學教授 工學博士 藤井寛君 } P.M. 11.45~ 0.10  
谷口悟君 }

晝 食 (工學部食堂に於て)

講 演 午後之部

23) 兼二浦低磷銑に就て 日本製鐵會社兼二浦製鐵所技師 田畑農夫君 } P.M. 0.50~ 1.15



24) 合金鋼の材料試験に現はれた特殊の時効現象に就て (幻燈用)  
 日本製鋼所 室蘭工場 太田 雞 一君 <sup>P.M.</sup> 1.20 ~ <sup>P.M.</sup> 1.45

25) 短時間局部加熱せる低炭素鋼材の衝撃抵抗に就て  
 大阪帝國大學助教授 工學士 岡田 實君 1.50 ~ 2.15

— 10 分 休 憩 —

26) 應力ワニスに依る熔接試験片の荷重變形模様 (幻燈用)  
 三菱重工業長崎造船所材料實驗場長 工學士 佐々木 新太郎君 2.25 ~ 2.45

27) 高溫度に於ける各種鋼の衝撃値と鍛延溫度の關係に就て  
 國產工業會社冶金研究所長 理學博士 菊田 多利男君 2.50 ~ 3.15

— 10 分 休 憩 —

29) 日本刀の源流  
 東京帝國大學大學院學生 文學士 岩崎 航 介君 3.25 ~ 3.45  
 工學士

30) 學振小委員會の鐵及鋼窒素分析方法に就て  
 東京帝國大學名譽教授

日本學術振興會 19 小委員會委員長 工學博士 俵 國 一君 3.25 ~ 3.45

閉 會 之 辭 日本鐵鋼協會々長 工學博士 水 谷 叔 彦君

講 演 會 完 了

晚 餐 會 (午後6時より)

會 場 福 岡 市 舊 柳 町 新 三 浦

會 費 金 四 圓 也

第 三 日 10 月 19 日 ( 月 ) 工 場 見 學

見學班を二班とし第一班を北九州方面、第二班を福岡 唐津 長崎方面とす。

第 一 班

八幡製鐵所、安田製釘所、日本タール牧山工場、黑崎窯業會社、安川電機製作所

第 二 班

渡邊鐵工所、唐津鐵工所

第 四 日 10 月 20 日 ( 火 ) 工 學 見 學

第 一 班

國產工業戶畑製作所、東洋製罐會社戶畑工場、共同漁業會社、國產工業若松製作所、東海鋼業會社、門司鐵道局小倉工場、陸軍造兵廠小倉工廠、淺野小倉製鋼所、東京製網會社小倉工場、櫻ビール會社

第 二 班

三菱長崎造船所電氣製鋼所、同所鑄物工場、同所造船所、同所材料試驗場

第 五 日 10 月 21 日 ( 水 ) 隨 意 工 場 見 學

福 岡 以 西

渡邊鐵所、唐津鐵工所、三菱長崎造船所、三井三池製鍊所、三井三池製作所、日本足袋久留米工場

八 幡、戶 畑、若 松、小 倉 市

八幡製鐵所、安川電機製作所、黑崎窯業會社、安田製釘所、日本タール牧山工場、門鐵小倉工場、國產工業戶畑製作所、東洋製罐戶畑工場、東海鋼業會社、國產工業若松製作所